

校内研究会 0926

平成26年9月26日(水) 第6回校内研究会

低・中・高学年分科会授業提案

第1学年 道徳 主題名「素直な心」 1-(4)

資料名『おつきさまとコロ』(わたしたちの道徳)

指導者 岡部 彩

第4学年 道徳 主題名「友達のよさを知る」2-(3)

資料名『ぼくらだってオーケストラ』(東京書籍)

指導者 岩浅 健介

第6学年 道徳 主題名「友達を思う気持ち」2-(3)

資料名『ロレンゾの友達』(文部科学省道徳教育指導資料 指導の手引き4) 指導者 山本 光

第1学年

《授業の様子》

- 導入 虫の音を聞き、資料の世界を想像する。
「こんな音を聞いたことがありますか。何かは歌っています。」
- 展開前段 資料を読んで話し合う。
「ギロに誘われても知らん顔をしたり、断ってしまったりしたコロはどんな気持ちだったでしょう。」
「なかなか謝れないコロは、どんな気持ちだったでしょう。」
「草の露で自分の顔をしばらく見つめながら、コロはどんなことを思ったでしょう。」
「素直で、明るい声で歌を歌った後のコロはどんなことを思ったでしょうか。」
- 展開後段 今までの自分を振り返り自分自身のことについて考える。
「どんな顔で生活していきたいですか。」
- 終末 学習のまとめをする。
実物投影機にワークシートを映し、児童に説明させる。



《指導の工夫》

(1) 板書の工夫

コロの戦う二つの心を表すハートを黒板に掲示する。中心発問では、コロの顔をシルエットにして掲示することで、児童の思考を深める。

(2) 話し合いの工夫

コロがどんな顔をしているのか想像しながら、話し合うことで、明るく素直に生活することの大切さに気づかせ、価値理解を深める。

(3) 展開後段の工夫

「どんな顔で生活していきたいか」を自分の顔の絵で表現させ、言語化・文章化することが困難な児童も価値に関わる思いや課題を培い、自覚できるようにする。

第4学年

《授業の様子》

- 導入 自分のよさとして出たアンケートの内容を提示する。
「自分が得意なことはどんなことですか。アンケートの結果をお話しします。」
- 展開前段 資料を読んで話し合う。
「なつみの方をちらっと見て、知らんふりをしていたてつおは、どんな気持ちだったか。」
「自分のことのように喜んでいるなつみを見たとつおは、どんな気持ちだったか。」
「音楽会が終わったら、なつみに逆上がりを見せてあげようと考えたとつおはどんな気持ちだったか。」
「一生懸命教えてあげたなつみはどんな気持ちだったか。」
- 展開後段 今までの自分を振り返る。
「友達を助けてあげてうれしかったことや、友達に助けてもらってうれしかったことはあるか。」
- 終末 学習のまとめをする。
「わたしたちの道徳」70ページから71ページを読む。



《指導の工夫》

(1) 発問の工夫

互いに理解し、助け合おうとする価値理解を深めるために、てつおだけでなく、なつみの心情を問う発問もする。

(2) 板書の工夫

なつみに助けてもらいたくないという気持ちから助けてもらってうれしい、自分も助けてあげたいというてつおの心情の変化が一見してわかるように板書を工夫する。

第6学年

《授業の様子》

- 導入 よい友達とはどんな友達か考える。
「よい友達とはどんな友達ですか。」
- 展開前段 資料を読んで話し合う。
「『お金を持たせて黙って逃がしてやる』と言ったアンドレはどんな気持ちだったのでしょうか。」
「3つの考えの中であなたは誰の考えに近いですか。また、それはどうしてですか。」
「ロレンゾと再会した夜、3人で話し合ったことを誰も口にしなかったのはなぜだろう。」
- 展開後段 自分のことについて考える。
「友達とのつきあい方について、あなたが大切にしたいことは何ですか。」
- 終末 教師の説話を聞く。



《指導の工夫》

(1) 資料の活用の工夫

友達を思う3つの考え方としてとらえ共感的に資料を扱う。理由をはっきり述べさせ話し合いを進めることで、3人の考えの根底には「友達のことを考えている」ことに気付かせ、ねらいに関わる多様な

価値観を引き出す。

(2) 事前のアンケートの実施

課題意識をもたせ、効果的な資料への導入と終末を図るために、事前に「よい友達とはどんな友達ですか」という趣旨でアンケートを取る。導入時に提示し、終末でねらいとする価値と比較することで、現在の自分をより深く振り返られるよう資料として活用する。

(3) 小グループ集団による話し合い活動

ねらいに関わる多様な価値観を引き出すために、小グループ集団による話し合い取り入れる。

(4) 効果的な板書とICTの活用

ICTを活用して資料提示を効率的に行う。3人のロレンゾに対する言動について整理し、児童がその相違を把握しやすいような板書の構成を図る。

【協議会】

《各分科会からの報告》

低学年

- ・顔の表情を手がかりに心情にせまったのがよかった。考える手がかりになった。
- ・動作化は、全員の児童が同じことができて、心情を考えさせるのに有効だった。
- ・中心発問を黒板の中心に書き、右と左で顔の表情が変化し気持ちが変わったということが、構造的に表すことができた。
- ・資料が長いので、一読しただけでは理解が難しい児童もいる。要約して先生が確認したり、キーワードを貼ったりして、理解を助ける。
- ・資料が1年生の9月のこの時期に適した資料だったか。

中学年

- ・時間配分について
授業者がキーワードをもって、それが出たら終わりにするということも必要。
- ・「むかつく」で終わるのではなく、後に続く言葉を引き出す。
- ・てつおの気持ち=なつみへの理解につながる
- ・板書を振り返って、ワークシートを書かせると考えが深まる。
- ・自分の経験を振り返ることで、価値に自分を近付けていくことにつながる。

高学年

- ・まずアンドレを取り上げて、気持ちに迫っていくところはよかった。しかし、あり・なしを問うたことで、アンドレの選択肢がなくなった感じもある。子供たちは正解を探してしまうところがあるので、本音を言う時間としたい。
- ・資料そのものについての善し悪し。信頼友情について適した資料か。
- ・活発な話し合いができていた。しかし、話し合いは同じ立場だけでは成り立たない。
- ・最初に友達を思っていたという3人共通の思いを確認してから話し合うと深まったか。

《指導・助言 文部科学省教科調査官 赤堀 博行 先生》※資料「道徳授業で大切なこと」参照

○道徳的価値の自覚を深める

今の自分がどのような段階にあるかを把握するということ。

Ex: 正直・明朗という価値について、今の自分はどうだったのか、と確認する。

道徳的価値の理解、自分との関わりで道徳的価値をとらえる。そして、これから道徳的価値を発展させていく。

いま、自分はどのような状態にいるかを把握しないと、課題につながっていかない。

○道徳的実践力を育成する

善悪の判断→状況の判断→これまでの体験
適切行動を主体的に判断するとき大切なこと。

○道徳的価値を深める

道徳的価値を深めることができているかどうか、というのが授業の判断

(例) ロレンゾの話だと、友達とのかかわりだけで考えられるものではない。勇気だって必要。使う道徳的価値はひとつではない。

1年生

- ・授業を作っていくときには主題設定の理由が大事である。児童の実態、これまでの指導と一貫させて書く必要がある。友達の間違いを責めたり笑ったりしない、というのは、体育の目標ではなくて、学習活動の配慮。
- ・指導の工夫…何のためにその工夫をしているのか。
→価値理解？自己理解？
- ・発問の言葉を精選する。
×「コロくんの気持ちになって聞いてください」
○「コロくんの気持ちを考えながら、聞いてください。」自分とのかかわりで考えるから。
- ・一番最初の顔は、提示するのではなく、考えさせるべき。資料を通して、コロを通じて、なかなか素直になれない気持ちを考える。
- ・ハートはわかりやすかったか。
- ・役割演技・動作化よい。
- ・明るい心で行動している気持ちとは何か。
→明るい気持ちで行動したいなど考えさせ、確認してから顔を描かせるとよい。

4年生

- ・出典が書いてあるのがよい。
- ・各教科での指導…同じ内容項目の前の授業について書く。今回ならば、友情の価値の前の授業についてどうであったか。
- ・てつおの気持ちを理解させるだけではだめ。感じ取るではなく、想像する。
→自分とのかかわりで考える。
- ・心情の変化が一見してわかるように、心情の変化をとらえさせる授業ではなく、自分に置き換えて。
- ・導入は、友達とのかかわりで考えさせたほうがよい。本時のねらいにそって。
友達のことを受け入れられない気持ちを考える。
- ・第三発問では、徐々に受け入れられていくなつみの気持ちを考えさせてもよかったか。自分と友達とのかかわりについて考えさせる。

6年生

- ・資料について。資料に出てくる3人の考えは、固定ではない。流動的にかわっていく。
- ・日常の指導…スピーチでは、どんな言葉かけをしているか書いてあるとよい。
- ・アンドレの考えについて、有りか無しかを聞く前に、書かせたほうがよいか。
- ・道徳の時間は、何か答えを導き出す学習ではない。
- ・多様な価値観の多様とはどういうことか。